

# 平成30年度「地方創生推進交付金等活用事業」評価結果

(令和元年9月)

## ○ 地方創生推進交付金等について

地方創生推進交付金等は、地方版総合戦略に位置づけられた、地方公共団体の自主的・主体的な取り組みで、先導的なものを支援する国の制度です。(補助率：事業費の1/2)

地方創生推進交付金等を活用する事業にあっては、ふさわしい具体的な重要業績評価指標(KPI)を設定し、PDCAサイクルによる成果を重視した事業を展開するとともに、事業年度毎に、外部有識者等による効果検証を行い、その結果について公表し、かつ、国へ報告することとされています。

現在、地方創生推進交付金4事業、地方創生拠点整備交付金2事業、合計6事業について、国の認定を受け、交付金対象事業を実施しています。

地域再生計画の名称	事業概要	取組内容	KPI (平成30年度)		指標の達成度 (自己評価)	改革改善の方向性 及び課題・解決策
			目標値	実績等		
【交付金名：地方創生推進交付金】						
創業支援によるまちなか 賑わい創出プロジェクト  (H28~30年度対象)	<p>チャレンジショップ支援事業や、空き店舗活用事業などの事業を推進し、商業者と市民が協働して開催するイベントを支援していくことにより、中心市街地の魅力と賑わいを創出する。</p> <p>市内外からの誘客の強化、地域経済の活性化による経営の安定化と新たな起業家の創出、といった好循環を生み出し、しごとの創生、移住・定住につなげる。</p>	<p>・空き店舗活用事業 中心市街地の空き店舗に新たに 出店する事業者に対し、改修 費や家賃を補助する。</p> <p>・チャレンジショップ支援事業 中心市街地の空き店舗を活用 し、新規起業家への支援をしま ながら、中心市街地の魅力と賑わ いを創出する。</p>	創業者数		B	<p>・中心市街地に整備したチャレン ジショップに出店希望があり、平 成30年7月に創業を開始すること ができた。</p> <p>・中心市街地の空き店舗を活用 し、新たに新店した創業者を確保 できたが、目標数には達しなかつ た。</p> <p>・地元商業者や商工団体と連携し ながら、「真岡木綿ふれあい祭 り」や「天の織姫市」等のイベ ントを定期的実施し、中心市街地 の賑わいの創出、地域経済の活性 化を図った。</p>
			7人	2人		
			卸売・小売業の販売額			
			1,027 億円	1,198 億円		
			転入者数			
2,515 人	2,675 人					
【交付金名：地方創生推進交付金】						
まちなかで楽しもう！ 地域資源を活かした まちの賑わい創出事業  (H28~30年度対象)	<p>中心市街地において、空き店舗 を活用し整備するまちかど美術館 整備事業や、民間の私設美術館を まちかど美術館として市が認定す るまちかど美術館認定事業、観光 拠点施設のひとつである久保記念 観光文化交流館内の美術品展示館 の運営事業などにより、地域資源 を活かした新たなまちの賑わいを 創出するとともに、それらを周遊 する手段のひとつとして自転車 を活用する環境を整備する。</p> <p>これにより、市内外からの誘客 強化、地域経済の活性化といった 好循環を生み出すとともに、移 住・定住の促進につなげる。</p>	<p>・まちかど美術館運営事業 空き店舗を活用し、地域の芸 術家、芸術愛好家、市民が創作 した作品等を展示する。</p>	観光拠点施設 (観光物産館・S Lキューロク館) 売上高		A	<p>・空き店舗を活用したまちかど美 術館の運営により、久保記念観光 文化交流館の美術品展示館や、2 つの民間美術館（認定美術館）と 連携しながら、文化芸術の振興及 びまちの賑わいを創出することが できた。</p> <p>・観光拠点の生産性（売上高）も 向上している状況であり、目標売 上高を上回る実績があった。</p>
			18,370 千円	21,587 千円		
			観光客入込数			
			297 万人	296.1 万人		
			卸売・小売業の販売額			
1,027 億円	1,198 億円					

地域再生計画の名称	事業概要	取組内容	KPI (平成30年度)		指標の達成度 (自己評価)	改革改善の方向性 及び課題・解決策	
			目標値	実績等			
【交付金名：地方創生推進交付金】							
ツール・ド・とちぎを核とした地方創生推進計画 (H29～R1年度対象)	全国初の取組となる県内全市町を舞台とした国際自転車競技連合公認レース「ツール・ド・とちぎ」の継続的な開催を通じて、県、県内全市町、民間事業者、金融機関等が一体となって「自転車によるまちづくり」を進め、レースコースの地域資源化を図ることにより、産業やスポーツの振興、通年での観光誘客の促進、中山間地域の振興、若者の郷土愛の醸成と定住促進、農林業の振興等の施策を波及的に進めていく。	「ツール・ド・とちぎ」の開催にあたり、県内の観光名所等をレースコースに盛り込み、さらには発着地点等において地元のみちづくり団体等によるおもてなしブースを設置するなど、国内外から訪れる来場者に本県の魅力を満喫してもらえる仕組みを構築する。 また、サイクリストを中心とした通年での観光誘客並びに交流人口の拡大、農産物の6次産業化による農林業の振興、大会へのボランティア参加を通じた若者の郷土愛の醸成並びに定住の促進等につなげる。	公営レンタサイクル利用者数	58,902台	73,482台 (うち本市273台)	-  ・県内の公営レンタサイクル利用者数は、目標を上回る実績となったが、本市において実施している真岡駅、久保記念観光文化交流館のレンタサイクル利用者数は、年間300台弱で推移している。  ・第3回大会では大会初日の個人タイムトライアル会場となった井頭公園において、PRブースを設けいちごサンプリングや物販を行うとともに、子供ブースを設ける等、子どもから大人まで楽しめるイベントを開催し、大盛況に実施することができた。	事業継続  大会運営者であるNPO法人ツール・ド・とちぎの会や栃木県と連携を図りながら、第4回大会の準備を進めていく。 また、意欲のある事業者ともタイアップしながら真岡市のPR、地域の活性化等につなげていく。
			ツール・ド・とちぎ公式HP閲覧回数	20.40万回	21.61万回		
			外国人宿泊者数	250千人	223千人		
			観光消費額	6,410億円	6,297億円		
			いちご販売額	8,229百万円	8,660百万円		
			認定新規就農者数	6人	4人		
			主要野菜(にら、トマト(ハウス)、なす(ハウス))販売額	14.7億円	12.0億円		
観光いちご園入場者数	36.5千人	36.5千人					
「全国いちごサミット」を核とした儲かる農業推進プロジェクト (H30～R2年度対象)	国内初の取組となる全国のいちご主要産地が一堂に会する「全国いちごサミット in 真岡」を開催し、これを契機として、本市をはじめ栃木県や県内全市町が連携した「いちご王国」づくりを更に深め、地域ブランド力の強化、高付加価値や販売単価向上に向けた6次産業化、新たなビジネスモデルの構築、国内外の新たな販路拡大に向けた農家所得向上の儲かる農業の仕組みづくりにつなげ、地域経済の活性化を図ることで、新たなしごと創出、若い世代の移住・定住の促進、人口流出の抑制につなげていく。	「全国いちごサミット」においては、新たなビジネスモデル構築、ビジネスマッチング、海外輸出に向けた販路拡大、農家所得向上等のためのビジネスサミットと、消費拡大やブランド力向上等のための消費者向けイベントサミットを開催する。 また、サミット開催機運を高めていくため、関係機関や地域と行政が一体となった「プレイイベント」等いちごに関するPRイベントを広く、かつ継続的に実施し、主要産地との交流を進め、サミット開催の裾野を広げる活動を展開する。	いちご販売額	8,229百万円	8,660百万円	B  ・全国いちごサミットの開催に向け、いちご王国としてオール栃木体制で組織した実行委員会において、開催日を、2020年3月14・15日に決定し、開催概要や生産者の技術交流などのビジネスサミット、出店ブースやステージを設けて、多くの人で賑わうイベントサミットなど、基本計画の策定を行った。  ・上野駅・大宮駅、有楽町駅前広場、横浜赤レンガ倉庫でのイベントを通じて、首都圏の消費者に対し日本一のいちごのみち真岡とサミットのPRを行った。特にいちごの配布は大変好評であり真岡市の知名度向上が図られた。  ・プレイイベント「いちごフェスタ2019」を開催し、サミット本番を見据え、計画の検証と、課題の抽出を行った。	事業継続  全国のいちご産業に関わる人と地域が連携し、持続的な発展と消費拡大を目指し、さらにはジャパンブランドのいちごの地位を確立するため、「いちごはひとつ」の大会キャッチコピーを掲げ、全国の主要産地が一つになって、開催する「全国いちごサミット in おか2020」の準備を進めていく。
			認定新規就農者数	6人	4人		
			主要野菜(にら、トマト(ハウス)、なす(ハウス))販売額	14.7億円	12.0億円		
			観光いちご園入場者数	36.5千人	36.5千人		

地域再生計画の名称	事業概要	取組内容	KPI (平成30年度)		指標の達成度 (自己評価)	改革改善の方向性 及び課題・解決策												
			目標値	実績等														
【交付金名：地方創生拠点整備交付金】																		
SLの走るまち拠点施設 SLキューロク館整備事業  (H29年度対象)	SLキューロク館敷地内において、静態展示している人気のD51型SLを既存の9600型SLと並走させるための軌道を敷設することにより、「SLの走るまち」真岡の価値を高め、まちなか誘客の拠点としての機能を強化する。 また、地方創生推進交付金で中心市街地に整備した「チャレンジショップ」や「まちかど美術館」と連携するとともに、自転車利用環境の整備等により周遊性を向上させることで、中心市街地への滞在時間を延ばし、まちなかの消費拡大につなげ、まちなかの賑わいを創出する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>軌道整備及び舗装工事 D51型SLを動態保存するための軌道整備と舗装工事を実施した。</li> <li>D51型SL動態整備 D51型SLが圧縮空気です走できるように整備した。</li> </ul>	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">観光拠点施設（観光物産館、SLキューロク館）売上高</td> </tr> <tr> <td>18,370 千円</td> <td>21,587 千円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">SLキューロク館入館者数</td> </tr> <tr> <td>12.85 万人</td> <td>13.39 万人</td> </tr> <tr> <td colspan="2">卸売・小売業の販売額</td> </tr> <tr> <td>1,027 億円</td> <td>1,198 億円</td> </tr> </table>	観光拠点施設（観光物産館、SLキューロク館）売上高		18,370 千円	21,587 千円	SLキューロク館入館者数		12.85 万人	13.39 万人	卸売・小売業の販売額		1,027 億円	1,198 億円	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>D51形SLを動態整備し、本市の3大観光資源の一つであるSLを有効活用し、新規イベントを開催した。</li> <li>真岡鐵道沿線1市4町による「DC実行委員会県東地域分科会」を組織し、連携を密にし、広域観光パンフレットを作製するなど広域的な観光の振興を図った。</li> <li>観光拠点施設の生産性（売上高）もSLキューロク館の入館者数もともに向上している状況である。</li> </ul>	<p>事業完了</p> <p>今後も、観光拠点との連携を図りながら、誘客の強化と地域経済の活性化等につなげていく。</p>
観光拠点施設（観光物産館、SLキューロク館）売上高																		
18,370 千円	21,587 千円																	
SLキューロク館入館者数																		
12.85 万人	13.39 万人																	
卸売・小売業の販売額																		
1,027 億円	1,198 億円																	
地場産業の生産性向上に資する真岡木綿会館及び観光物産館再整備事業  (H30年度対象)	真岡駅から中心市街地の商店街への徒歩圏内の動線上に位置し、伝統産業の展示機能等を有する「真岡木綿会館」及び特産品等を販売する「観光物産館」に滞在・滞留できるオープンスペースを増築する。 更に、観光客等の滞在時間の延伸と、民間美術館、SLキューロク館や中心商店街の回遊性を促進する商店街イベント等との連携を図り、観光消費額の増加を図ることに加え、商工会議所、商工会や中小事業者と特産品を生かした新商品の開発や販売を進めながら、官民協働で中心市街地の商店街全体の稼働率及び客単価等を向上させ、地場の中小事業者等や観光業の所得向上につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>真岡木綿会館再整備工事 既存の真岡木綿会館に、木綿製品の販売スペース（ショップ）を増築した。 また、ショップに併設したウッドテラスを増築し、「もめん茶屋」や木綿会館の滞留スペースを整備した。</li> <li>観光物産館再整備工事 既存の観光物産館に、ウッドデッキ（カフェスペース）を増築した。 また、若い世代が参集しやすいカフェや景観整備を図り、中心市街地の賑わいを創出する。</li> </ul>	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">真岡木綿会館売上額</td> </tr> <tr> <td>10,903 千円</td> <td>11,968 千円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">観光物産館売上額</td> </tr> <tr> <td>12,130 千円</td> <td>14,246 千円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">真岡木綿会館及び観光物産館入館者数</td> </tr> <tr> <td>70,299 人</td> <td>69,736 人</td> </tr> </table>	真岡木綿会館売上額		10,903 千円	11,968 千円	観光物産館売上額		12,130 千円	14,246 千円	真岡木綿会館及び観光物産館入館者数		70,299 人	69,736 人	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>真岡木綿会館再整備工事 既存の真岡木綿会館に、ショップを増築し、これまでの見学・機織り体験に、新たに販売機能を加えた施設になり、真岡木綿に親しみやすい環境やウッドテラスを増築し、来館者や観光客が集い憩える空間を提供できる施設になった。これにより、中心市街地へ賑わいの創出に努め活性化を図ることができた。</li> <li>また、アフターDCへ向けキューロク館や中心商店街に回遊性を持たせるイベント等を展開することができた。</li> </ul>	<p>事業完了</p> <p>完成した両施設を有効活用し、交流人口の増加に努めていく、また、DCを契機とし、磨き上げた観光資源を積極的にPRすることで誘客を図りるとともに本市の知名度向上に努めていく。さらに、中心市街地と観光施設等を結ぶ回遊ルートを作成すること、また、客一人当たりの観光消費額の増加を目指す。</p>
真岡木綿会館売上額																		
10,903 千円	11,968 千円																	
観光物産館売上額																		
12,130 千円	14,246 千円																	
真岡木綿会館及び観光物産館入館者数																		
70,299 人	69,736 人																	